

ふいんてっく通信

～ Vol.16 ～

フィンテックだからできる即日払い

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

nikko am
fund academy

日本では、新型コロナウイルスの感染拡大で緊急事態が宣言され、経済活動の停滞から中小企業の資金繰りがひっ迫しつつあります。そこで、政府は資金繰り支援を決定したのですが、直ぐにはお金が行き届かないようです。今回は、オンラインなどで即現金が受け取れるファクタリングに注目してみます。

■ ファクタリングは手形割引と何が違うのか

ファクタリングとは、企業が入金待ちの請求書（売掛金）を売却してお金を調達することです。相手先から振り出された手形（＝請求書）を担保に融資を受ける手形割引とは異なります。また、依頼する企業は、ファクタリング会社に請求書を売却した後に取引先が倒産しても、責任は及びません。

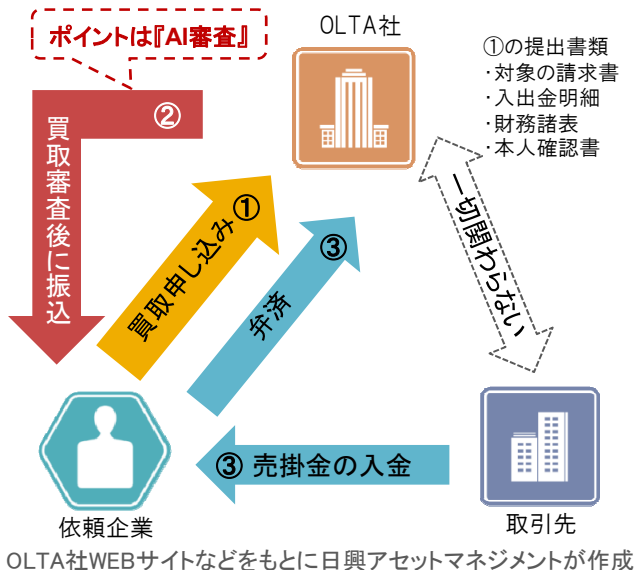
取引時の審査は、手形取引は取引先の信用力と依頼する企業の買戻し能力が対象になる一方、ファクタリングは取引先の信用力のみが対象となります。したがって、ファクタリング会社が相手先の倒産などのリスクをすべて負うため、手数料は相対的に高めになります。

取引には、依頼する企業とファクタリング会社の2社間取引と、これに取引先を加えた3者間取引があります。銀行系に多い後者は、回収リスク軽減から取引先への確認と承認を取り付けるため、支払いまでに時間がかかることから、フィンテック企業が提供する2者間取引が増え始めています。

■ なぜ 即日払いが可能なのか

ここでは、ファクタリングサービスを提供するOLTA（東京都港区）の取り組みをみてみます。同社のパートナー企業には大手金融機関が名を連ねており、2社間取引に特化し、紙の提出や面談なしのオンライン完結型にすることで、「早い、簡単、リーズナブル」を実現しています。

【OLTA社のオンライン取引の概要】



これを可能にしたのが、最も時間とコストがかかる書類審査を、同社独自で開発した約20万社の法人データに基づくAI（スコアリングモデル）に置き換えたことです。コスト面では、一般に2桁%以上かかるといわれる手数料を、2～9%という比較的リーズナブルな水準に抑えることができます。

このAIの審査システムは、すでにクラウド会計ソフトを手掛けるfreeeでも利用されており、最近では地方銀行での利用も広がり始めています。

先ごろ、日銀が発表した企業の資金需要の強さを示す判断指数が、リーマンショック時の水準を超えて過去最高になった、と報じられました。今後、OLTA社のようなフィンテック企業の資金繰り支援サービスは、より一層注目されるとみられます。

本文中の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。